

第6章 景観形成の基本理念と方向性

6-1 景観形成の基本理念

本市の景観特性と課題を踏まえ、景観形成の基本理念を以下のとおり定めます。

『歩きながら五感で感じる四季・彩・時の景観づくり』

～歩きながら大府市の多様な景観（四季・彩・時）を五感を使って感じ取り、
景観づくりを通じて健康になることができるようなまちにする～

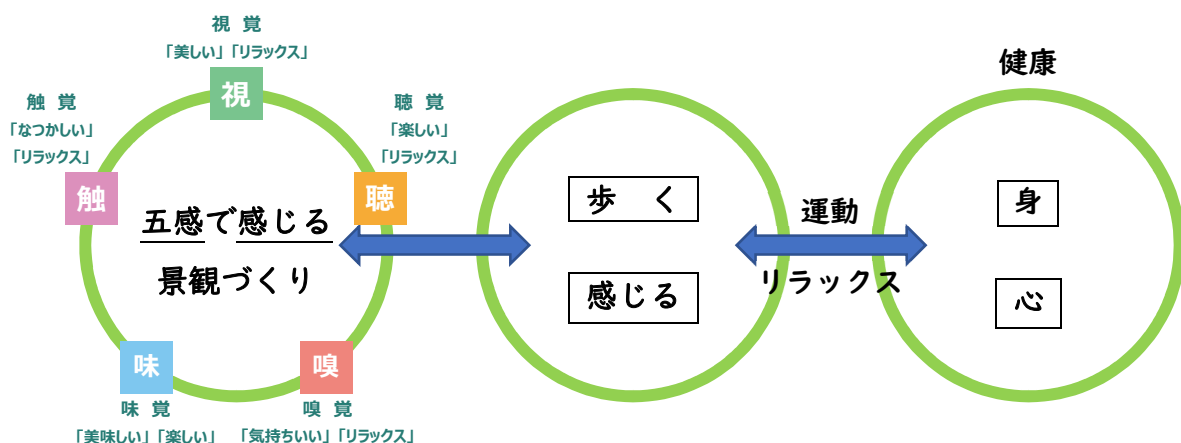
景観づくりとは、今ある景観に対して「大切にする（保全）」「手を加える（改善）」「取り除く（除去）」、また、新たな景観を「創（作）り出す（創出）」ことです。

本市では、これまで大府の景観特性であるため池や河川などで、緑や親水性など守るべきところは守るとともに、改善や除去を行いながら、より魅力のある景観を創造してきました。

また、新たに創造した景観については、市民と一緒に守り育てる取組を行っています。

これからも、四季感があふれ、豊かな緑、彩りある自然や郷土の歳時、時空（時）の流れを積み重ねる景観資源を充分に活用し、「ふるさと風景」づくりと「健康なまち」づくりを調和させた新しい都市が、景観的観点からみた本市のイメージといえます。

図表6-1 五感で感じる景観づくりと健康の関係



本計画では、豊かな緑、川のせせらぎ、花木や果物の香りなど、人は五感（視覚、聴覚、味覚、触覚、嗅覚）をフルに活用して、風景を感じていることから、「五感で感じる」という観点を付加し、心身ともに健康になることを目指します。

また、本計画はSDGsの思想を反映した計画とするとともに、ここに示す施策を実践することにより、SDGsを達成すると考えます。

【SDGsの目標のうち当該計画に関連のある目標】



コラム 五感に影響する景観

視

◆花の鑑賞は心身のストレスを緩和する

花の鑑賞が脳の活動に影響を与え、心理的、生理的に生じたストレスを緩和させることを明らかにしました。花を生活に取り入れることで、日常に起こるストレス反応を上手く軽減できる可能性を示しています。

(出典：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構「(研究結果) 花の鑑賞は心身のストレスを緩和する」)

聴

◆自然音を聴くことによる自律神経機能に及ぼす効果

自然音は、幸せホルモンと言われているオキシトシンに影響を与え、かつストレス因子指標の1つであるコルチゾールに影響を及ぼした。また心拍数を減少したことから本研究で用いた自然音は、ストレス緩和があり、リラックス効果が期待された。

(出典：筑波技術大学紀要 筑波技術大学テクノレポート「自然音を聴くことによる自律神経機能に及ぼす効果に関する研究」)

嗅

◆木材セラピー：嗅覚を介した生理的リラックス効果

木材の香りについては、日本の代表的な樹木であるヒノキを対象に、実験を行いました。まず、ヒノキの枝葉から抽出した精油の香りがもたらす生理的リラックス効果を調べました。温湿度と照度を一定に調整した人工気候室という実験室にて、20歳代の女子大学生に精油の香りを90秒間嗅いでもらいました。比較のための対照条件は、においなし(空気)としました。

その結果、ヒノキ精油の香りを嗅ぐことによって、高すぎる脳前頭前野活動が鎮静化し、リラックス時に高まる副交感神経活動が統計的有意差を持って亢進しました。

(出典：環境健康フィールド科学センター 池井 晴美 特任助教「木材セラピー：嗅覚・触覚・視覚を介した生理的リラックス効果」)

味

◆なぜ自然環境の中で食事をするとうまいのか？

屋外での食事が美味しく感じられるのは、これら自然環境が保有する心理的な効果と何らかの関係性があると考えられる。そこで、どのような環境の元での食事が美味しく感じられるのかを、心理学的アプローチから検証してみた。

①庭の緑が全く見えない屋内、②庭の緑が窓から見える屋内、③庭の緑が見える屋外のテラス席、④庭の緑の中の4カ所において、市販されているペットボトルのお茶を飲んでもらい、お茶の味に関する印象を調べた。その結果、庭の緑が全く見えない①よりも、庭の緑が見える②から④の環境でお茶を飲む方が、お茶の味に対して「健康的な」、「贅沢な」といった印象を持つことがわかった。このことから、同じお茶を飲んだとしても、飲む環境で味に対する印象が変わることがわかった。

(出典：千葉大学大学院園芸学研究科 岩崎 寛 准教授 博士(農学)「なぜ自然環境の中で食事をするとうまいのか？

Why Does Food Taste Better When You Eat in Nature?」)

触

◆木材セラピー：触覚を介した生理的リラックス効果

家具や内装材として一般的に用いられる広葉樹・ホウソクオークを対象に、手で触ったときのリラックス効果について調べました。比較のための素材としては、大理石、タイル、ステンレス板といった他の建築素材を用いました。20歳代の女子大学生に協力いただき、目を閉じた状態で、各種素材に90秒間触ってもらいました。

その結果、ホウソクオーク材に手で触れた場合、他素材と比べて、脳前頭前野活動の有意な鎮静化と副交感神経活動の亢進をもたらす、生体を生理的にリラックスさせることが明らかとなりました。

(出典：環境健康フィールド科学センター 池井 晴美 特任助教「木材セラピー：嗅覚・触覚・視覚を介した生理的リラックス効果」)

6-2 景観形成の方向性

●五感で景観を感じ、健康で楽しさを味わえる「場」と「機会」をより豊かにする。

丘、樹林地、河川など、現在ある大府の景観の骨格となる地理的要素に加え、農業をはじめ、本市における産業の営みや、坂のある暮らし、生活の中で繰り広げられてきた祭りをはじめ伝統文化などを含めた歴史景観など、これまで培われてきた風土を構成する景観について、私たちがそれを五感で感じ、健康で、楽しさを味わえるような「場」と「機会」をより豊かにしていきます。

●景観まちづくりの取組を通じて、人と人、人と都市をつなげる。

現在私たちが五感で感じることができ景観を守り育て、さらに将来へ向けて新たな景観を創造していくなど、さまざまな市民活動や経済活動による景観まちづくりの取組を広げることにより、コミュニティの絆を深め、また、都市景観について身近な自分ごととして考えながら、市民間の交流、他地域との交流を巻き起こしていきます。

また、今後は積極的にデジタル化に取り組み、景観や歴史、緑などの情報発信をはじめとして、人・場・情報をつなげることにより、利用者の多様なライフスタイルに寄り添える地域社会の実現を目指します。

●『シビックプライド』（市民の誇り）及び『シティブランディング』（まちの価値を高めるためのさまざまな活動）へとつなげていくことで、市民がいきいきと暮らす風景を「新たな風土」としていく。

これら「これまでの風土」の保全と利活用の営み、「これから創る風土」をよりよいものとする営みの両方によって、単に地形地物などによる景観のみでなく、「市民がいきいきと暮らす風景」を持続的に創りあげていくことを到達点として目指します。

また、この営みに多くの市民が参加し、交流が巻き起こることによって、「このまちで暮らしてよかった」「このまちで暮らし続けたい」という市民の誇りや愛着が育ち、「わがまち大府」という意識が高まること、さらに、この市民がいきいきと参加する景観まちづくりに取り組む姿勢自体によって都市の価値を高め、まちのブランド力としていくことを目指します。

●四季・彩・時に馴染む色を用いる。

本市の多彩な景観（四季・彩・時）を感じ取るために、地域（地区計画を含む）や公共施設などで用いる色彩は、地域の特色（変化ある緑の大地、大小の水辺空間と広がる空、ぶどうや桃・サクラ、歴史の積み重ね）と調和した色を用いることとします。

図表6-2 「新しい風土」に向けた景観まちづくり



明治24年（1891年）の地形

●大府らしさを生かした景観の変化

川池

平成 13 年(2001 年)

⇒ 親水公園化 ⇒

令和 3 年(2021 年)



鞍流瀬川緑道

令和 2 年(2020 年)

⇒ 散歩道整備 ⇒

令和 3 年(2021 年)

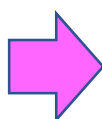


市道共和駅東線

平成 23 年(2011 年)

⇒ 歩道拡幅など ⇒

平成 28 年(2016 年)



大府駅付近

昭和 41 年(1966 年)

⇒ 都市化・緑化 ⇒

令和 2 年(2020 年)

